

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年06月分)

ご協力ありがとうございました。2025年6月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 142 回答 134 回答率 94.4%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	11社	13社	46社	35社	29社	134社
	8.2%	9.7%	34.3%	26.1%	21.6%	
	(2.2)	(8.8)	(34.6)	(29.4)	(25.0)	
売上高	12社	16社	37社	40社	29社	134社
	9.0%	11.9%	27.6%	29.9%	21.6%	
	(2.9)	(10.3)	(27.9)	(31.6)	(27.2)	
在庫数量	7社	16社	56社	36社	15社	130社
	5.4%	12.3%	43.1%	27.7%	11.5%	
	(4.6)	(15.3)	(47.3)	(21.4)	(11.5)	
販売単価	4社	10社	55社	52社	11社	132社
	3.0%	7.6%	41.7%	39.4%	8.3%	
	(3.0)	(8.2)	(48.5)	(35.1)	(5.2)	
収益状況 (粗利)	13社	15社	45社	39社	20社	132社
	9.8%	11.4%	34.1%	29.5%	15.2%	
	(4.4)	(7.4)	(33.8)	(40.4)	(14.0)	
稼働率 (生産・加工設備)	3社	11社	54社	32社	15社	115社
	2.6%	9.6%	47.0%	27.8%	13.0%	
	(1.7)	(6.1)	(46.1)	(34.8)	(11.3)	
入出庫の トラック台数	2社	9社	61社	45社	11社	128社
	1.6%	7.0%	47.7%	35.2%	8.6%	
	(0.0)	(3.8)	(45.0)	(37.4)	(13.7)	
現在の 景況感	0社	5社	40社	53社	35社	133社
	0.0%	3.8%	30.1%	39.8%	26.3%	
	(0.0)	(2.3)	(33.1)	(38.3)	(26.3)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	8社	83社	35社	7社	133社
	0.0%	6.0%	62.4%	26.3%	5.3%	
	(0.0)	(5.3)	(62.9)	(25.0)	(6.8)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(2025年6月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 6月の販売は、前月（5月）が最低だったので、それに比べると、少しは日当り販売量が増えたが、5月に次ぐ低い販売量となった。市況も安価な輸入材に引きずられ下がる一方。光が見えない状況に、廃業する取引先も数社出てきている。
- ② 6月は祝日もなく、フル稼働だったが内容は薄く、前年同月比マイナスだった。一部でお盆の長期連休を見越した予定は出たが、本当に来るのかどうか。
- ③ 6月の業績は前年同期比増収減益となり、物価高によるコスト上昇が経営を圧迫していることを反映した結果となった。引き続き適正な価格転嫁の推進が喫緊の課題。
- ④ 建材関連は、荷動きが良くない中、売上も確保するあまり安値がより一層見受けられる。

中板

- ① 中板は業種問わず需要低迷が続いており回復の兆しも見られない。店売りも各社小口当用買いに徹している。市況は受注確保の焦り売りもあり、ジリ安が止まらない状況。

厚板

- ① <全体感>全体的に需要動向は変化なく、各分野において低位横ばい。紐付分野においては輸出向けの生産に対して慎重な姿勢が強まっていると共に、足元も販売面での苦戦も相まって稼働が低い。これにより切板需要は総じて勢いがなく、店売り分野においても荷動きは低いままだ。
<分野別>建産機分野においては、上記の通り、先行き不透明感に加え、足元の需要減退に伴う投資意欲低下で販売が苦戦している。現時点では下期以降、若干の回復計画ではあるが、変動リスクも大きい。店売分野においても全体的な仕事量減少が重く、在庫も増加傾向にあると思われ、新規材料の購入には慎重になる傾向と思われる。
- ② 橋梁免震については悪い状況が継続しており、回復の情報すらない。店売りについては壊滅的状态が続いており、荷動きは殆どない。
- ③ 建設機械は減産が顕著になってきた。店売り関連は引き合い、売上も非常に減少している。

一般形鋼・H形鋼

- ① 前月の総ての調査項目の落込みが激しかったので、6月は少しながら挽回できて安堵している。自動車産業の落込み分は、データセンターの電力網不足補強や全国の下水道インフラ改造、造船工業の再構築等で補って貰いたい。
- ② 荷動きが悪く、ジリ安な弱基調。一部の流通による安値が見受けられる。
- ③ 荷動きに迫力はないものの、メーカー生産量減少ほどの落込みではない。少ないながらも市中手配へのシフトも見受けられる。一方、メーカー生産量に回復の兆しは見られず、スクラップは為替動向にもよるがほぼ横ばいが続き、メーカー採算も余力なし。流通はすでに赤字突入の品種もあり、メーカーに頼れる環境にないこと、このままでは事業継続も危ういことをしっかりと認識したうえで採算確保と在庫政策に取り組むべき。
- ④ 人手不足で再開発案件も遅れている。元請も人手不足になっている。人材確保が急務。

異形棒鋼

- ① 需要の落込みは深刻で、売上は前年同期比10～15%の減少が続いている。市況もジリ安傾向で、採算確保が難しい。
- ② 依然として荷動きは低位横ばいの状況。回復の兆しも見えず、辛抱するしかない。価格転嫁を進めつつ、現行値維持に努めて収益を確保する。
- ③ 数量、売上、台数はやや減少している。7月、8月は暑く、稼働も少ない。横ばいでいけたら良い。

平鋼

- ① 6月は稼働日数の関係で、5月比で多少荷は動いたが、前年同月と比べると10%程度のダウンになった。社内加工品もまとまった案件も少なく、短納期小ロットが主体となっており、数字が伸びていない状況。7月、8月の加工の受注残も少ないので、お客様へ訪問し今後の状況確認を進める。
- ② 数量は数ヶ月低位のまま推移。夏以降も物件不足で期待薄だ。

軽量形鋼

- ① 生産量、売上ほぼ横ばい継続。単価はやや低下傾向。10月以降の生産量は微増の見込み。
- ② 大型物件が佳境を迎えるため、先々減少傾向。2026年度までは需要がなかなか上向かないことが考えられるので、同業他社の売り込みが強くなっており、価格面が心配される。
- ③ 一段と厳しさが増している印象。6月、7月は営業日の多さに助けられたが、8月を思うと不安が募る。

鋼管

- ① 当社は、売上数量、金額、粗利、全て前年同期比10%以上の減少となり、不況感是不変変わらない。ただ、先行きの引合いは増えつつある。

構造用鋼

- ① 需要は、自動車関連で一部堅調も他は停滞の状態。建機関連は、メーカーの生産調整が終わり回復の様相を呈してきたが、限定的な様子。荷動きは総じて低調で店売りの引合いは弱い状況が続いている。在庫は一定水準を維持している。価格は需要に盛り上がりやを欠く中、ジリ安の相場展開で推移。

その他

＜鋼材一般＞

- ① 秋口から、城南島の大型冷蔵倉庫や九州の物件が動き出す予定。

＜敷鉄板リース＞

- ① 閑散期にしてはまずまずの高稼働を維持できている。

＜スクラップ＞

- ① 国内、海外共にメーカーの製品需要が低迷しているため、スクラップの荷動きも止まっている状況。相場は下げ基調ではあるが、極端にスクラップ発生量が少ないことが支えとなり、大きく変動することはないと予想。

＜金属表面処理＞

- ① 6月は紐付き、物件物共に予定通りの扱い量。スポットも小口ではあるが予想以上で推移した。また、鉄骨案件、プラント案件の重塗装が増え、一部、協力会社に応援を依頼し売上増加。昨年比べ、2週間前倒しで夏季対策を開始した。

＜魔棒鋼＞

- ① 自動車向け紐付品は、米関税問題の影響から、様子見の状況が長期化する見込み。店売り品は低位安定ながらも、価格面での下げ圧力が出てきている。加工賃是正も道半ばであるため、単価については維持していかなければならない。